

第44回冷凍技士研修会

日本食品分析センター多摩研究所見学会

竹埜 正敏 Masatoshi TAKENO

1. はじめに

食品の栄養成分分析や衛生試験、医薬品・医療機器の安全性試験、昨今注目をあびている食品機能性試験、環境汚染や化学物質による生態系影響試験など広範囲の試験を行い、その分析を通じて私達の「健康と安全」をサポートいただいている(一財)日本食品分析センター多摩研究所を見学した。今年新しく作られた日本食品分析センターの紹介ビデオを拝見したのち、日頃見ることのできない最新鋭の検査機器を用いた各種試験現場を見学させていただいた。さらに、2020年のオリンピックに向けて改正が予定されている食品衛生法、容器包装のポジティブリスト制度の導入、器具・容器包装を規制する意義についての講義を受けることができ、食品冷凍技士にとって有意義な研修となった。

2. 研修会概要

日時：2018年3月8日(木) 13:30～16:00

場所：(一財)日本食品分析センター多摩研究所

東京都多摩市永山 6-11-10

研修項目：1. 日本食品分析センター概要説明

2. 器具・容器包装の規制の動向に関するセミナー

3. 施設見学

参加者：14名

3. 日本食品分析センターの概要および事業内容

日本食品分析センターは、1957年に創立した。現在の分析試験対象は、食品、飼料、肥料、飲料水、包装資材、医薬品、医療機器、家庭用品、化成品など多岐にわたる。試験内容は、栄養成分や有害成分の定性・定量試験のみならず、機能性成分の検知・分取・同定・評価まで幅広い。多摩研究所は、東京本部、大阪支所、名古屋支所、九州支所に次ぐ5番目の試験研究施設として1988年に開設した。今回見学させていただいた1号棟と2号棟の検査課の配置図を図1に示す。非常に幅広く検査、試験が実施されていることを実感いただけたと思う。これ以外に、3号棟に試験企画課、4号棟に業務課、5号棟には応用試験課(異物検査、有機微量物質の分析、脱

1号棟

包材試験課 器具・容器包装の理化学試験 (AAS, HPLC, LC-MS, GC, GC-MS)	4F	ミネラル分析課 栄養成分、ミネラル、鉄、銅等の分析 (AAS, ICP, IC, 塩素・硫黄自動分析計)
農薬試験課(西側) 残留農薬の分析 (GC, GC-MS, GC-MS/MS)	3F	農薬試験課(東側) 残留農薬の分析 (HPLC, LC-MS, LC-MS/MS, GPC)
添加物試験課 保存料、着色料、漂白剤、酸化防止剤等 (HPLC, GC, GC-MS, LC-MS)	2F	理化学試験課 医薬品・食品添加物等の規格試験 (GC, HPLC等)
業務課 試験受託窓口 総務課/経理課	1F	規格試験課 医薬品・食品添加物等の規格試験
恒温器室、冷凍冷蔵庫 GLP資料保管施設、更衣室 試料保管室、倉庫	BF	排水処理施設、機械室

2号棟

無機分析課 鉛、銅、鉄、ニッケル、水銀等 (AAS, ICP-MS, 水銀分析計、蛍光X線分析装置)	4F	基礎栄養分析課 水分、タンパク質、脂質、灰分 (ケルダール水分計、自動窒素蛋白分析装置)
ビタミン分析二課 水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンの分析 (HPLC)	3F	分析化学課 機能性成分分析、分析法調査開発 (LC-MS/MS, LC-MS, GC, HPLC)
微生物試験課 医薬品・化粧品等の微生物試験	2F	ビタミン分析一課 脂溶性ビタミン、カロチノイドの分析 (HPLC)
精質分析課 糖・糖アルコールの分析 (HPLC, GPC, 旋光計)	1F	会議室 基礎栄養分析課 試料調整、水分活性等
排水処理施設、機械室	BF	試験室(SEM, NMR, γ線スペクトロメータ) 恒温器室、冷凍冷蔵庫、更衣室 図書室、試料保管室、倉庫

図1 1号棟と2号棟の検査課の配置図

臭効果試験など)、別館に水質試験課、微生物研究課、安全性試験課などがある。

4. セミナー 器具・容器包装の規制の動向

現行の法制度は、ネガティブリスト制度により毒性の強い物質についてのみ制限しており、原則としてすべての物質が使用可能な状態にある。このため、海外では使用が禁止されている物質を含む器具・包装容器でも、日本では流通が可能な状態にある。このため2020年の運用を目標に、2018年度通常国会提出を視野に入れ、ポジティブリスト制度の導入を準備中である。ポジティブリストを導入している国は多い。

講義では、導入に向けた検討事項、現行法の問題点、

安全性評価のための分析試験、容器包装を規制する意義などを詳しく解説いただいた。

5. おわりに

今回の研修を快く受け入れて、検査施設の様々な質問にも適切かつ丁寧なご対応をいただき、とても有意義な研修会にしてくださった(一財)日本食品分析センター多摩研究所の皆様には厚く御礼申し上げます。



竹埜 正敏 Masatoshi TAKENO

東京水産大学卒業

富士通商(株)
Fuji Trading Co., Ltd.
常務取締役

原稿受理 2018年3月22日

関係団体行事(本学会協賛)のご案内

行事名	日時・場所	内容
第59回高圧討論会	11月26日(月)～28日(水) 岡山理科大学 (岡山市北区)	主催：日本高圧力学会 分野：高圧力の科学と技術に関する次の分野、①高圧装置・技術、②固体物性、③材料科学・固体反応、④流体物性・流体反応・溶液、⑤生物・食品、⑥地球科学、⑦衝撃圧縮 講演申込締切：7月10日(火) 参加費：会員・共催・協賛学協会会員 5,000円(6,000円)、非会員 7,000円(8,000円) 会員・共催・協賛学協会学生会員 2,000円(3,000円)、非会員学生 3,000円(4,000円) ()は事前参加登録費。 講演内容詳細： http://www.highpressure.jp/new/59forum/ 問合せ先：(株)ボラリス・セクレタリーズ・オフィス内 第59回高圧討論会事務局 TEL 070-5658-7626 E-mail: touronkai59@highpressure.jp

お知らせ

平成30年度分会費ご納入についてのお願い

会員各位には、平素より学会会務にご協力を賜わり、誠にありがとうございます。

平成30年度の会費をお納めいただく時期となりました。当学会運営の主要な財源は会員各位の会費を基に成り立っています。皆様のご協力をいただき、今後とも学会の発展ならびに会員各位へのよりきめ細かいサービスを心がけ、会誌の改善、諸事業の積極的な展開、海外情報の伝達などを進めてまいります。

つきましては、出費ご多端の折、恐縮ではありますが、学会の健全な運営のため会費納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

- ① 請求書・振替用紙は6月初旬にお送りします。
- ② 口座引き落としは7月2日(月)になります。

なお、当学会の会費年度は7月から翌年6月までとなっている関係上、途中入会の場合、月割計算のうえ当年分の不足額を調整して請求させていただきますので、よろしくようお願い申し上げます。

*会費未納により自動的に退会とはなりません。退会届提出による意思表示が必要となります。